



Oasis meets Books

オアシス・ミーツ・ブックス

本のあるオアシス 本のある人生

2023年10月 vol.23

今年の夏は小学1年生になる娘と牛乳パックで作った「暑中見舞いの絵はがき」を送り、読書感想文で“いのち”に関する本と一緒に読み、娘の成長を感じた夏でした。
秋は、旬の食材を楽しむ、景色をみて季節を感じる、など色々な楽しみ方があります。
是非、読書の秋でも新たな楽しみを加えてみてください。(教育委員会 委員長：前田 吉紀)

大家さんと僕 / 矢部 太郎

デイケア オアシス寿安 / 介護士 吉田 由美

私は日頃マンガを読みませんが、「この本面白いよ」と娘が薦めてくれたので手に取りました。この本はテレビでも結構話題になりましたので、ご存知の方もいらっしゃると思います。



小さなキッカケから二世帯住宅の階違いで大家さん(87)と矢部さんが暮らす事になり、その出会いから友情を育むまでを描いた作品です。
入居して最初の頃は、大家さんが矢部さんの洗濯物を取り込んだり、何かあると逐一電話があったりと、大家さんの距離間の近さに戸惑っていた矢部さんでした。しかし、大家さんの温かさに触れていく中で、優しさや人柄に惹かれ、矢部さんも良い意味で気になっていく様子が見えて癒されます。

家族でもなかなか距離感を掴むのが難しい今の時代に、このような関係を築けるのは素晴らしいと心に響く何かがありました。

コミュニケーションや思いやり精神の薄れていく現代ですが、これからは2人を見習って行動しようと思った作品です。

コメディ要素もあり、非常に読みやすい「作品」なので是非一度、手に取ってみて下さい。



・次回⇒ デイケア オアシス寿安 / 介護士 津村 香順

パンどろぼうvsにせパンどろぼう / 柴田 ケイコ

グループホーム オアシスキズリ / 介護士(特定技能) ニン・ヌン・ネム

アールン ミンガラパー ジャマイエナメカ ネム ピバデ
(みなさま こんにちは ネムです)



私がお薦めしたい本は「パンどろぼうVSにせパンどろぼう」という絵本です。普段はなかなか本を読むことも少ないのですが、職場の先輩が貸してくれたこの本は絵がかわいくて、内容も面白くて、次はどうなるんだろう、とワクワクしながら読みました。

森のパン屋さんのお話で、ぶどうパンが盗まれるところから始まります。キャラクターもたくさん出てきて、盗んだ犯人を探し出す方法も面白いです。

犯人は・・・内緒です。気になる方、パンがお好きな方、小さいお子さまを育てておられる方、ぜひ一度読んでみてください。



・次回⇒ グループホーム オアシスキズリ / 介護士 三原 修平

人はなぜウソをつくのか? / 齊藤 勇

事業統括部 / 課長 吉田 孝之

今回、僕がご紹介する本は、「人はなぜウソをつくのか?」です。この本は、約20年前の2004年11月20日発行の本です。この頃の僕は、時間を見つけては、本を読み、色々な知識を身に付けようとしていました。そんな時に本屋で目についたのがこの本でした。



僕自身、ウソをつくこととウソにウソをついたりして、何が本当か分からなくなる。人に迷惑をかける。との思いからウソをつかないようにしようと心に決めていました。しかし、この本を読むと自分も知らない間に色々なウソをついていたのだと考えさせられました。

ウソには36種類以上のウソの種類があり、大きなウソから小さなウソ。他人を傷つけるウソから人間関係を保つウソ、意図的につくウソ、自分自身につくウソとあり、自分が知らない間についていたウソを考えさせられました。

この本は、ウソをつくことを心理学的からも考察しており、あつという間に読み終えることが出来ました。



・次回⇒ グループホーム オアシス平野 / 課長 成田 元

友情 平尾誠二と山中伸弥「最後の約束」 / 山中伸弥 平尾誠二・恵子

老健 オアシス デイケア・ショート / 介護士 長井 賢一

この本はIPS細胞で有名な山中伸弥さんが、2016年に亡くなった平尾誠二さんとの間の友情を描いた物語です。



平尾誠二さんと言えば、40代以降のラグビーファンならご存知の「ミスターラグビー」と言われたスター選手。選手としては高校・大学・社会人ラグビーで日本一となり、3度ワールドカップに出場し、監督としても当時の神戸製鋼総監督、全日本代表監督を務めた方です。

ラグビー経験者だった山中さんが雑誌で平尾さんに対談したことをきっかけに友情を深めていき、その後、平尾さんに癌が見つかり闘病生活が始まります。山中さんは平尾さんを支え、平尾さんも山中さんを信じて共に病気と戦う「友情」の記録となっています。

平尾さんは、ラグビーワールドカップ2019の日本誘致に尽力されましたが、大会を見ることなくお亡くなりになりました。

今年もラグビーワールドカップが開催されます。この本を読み、ラグビー関係者の熱い思いを感じながら、ビール片手に日本代表を応援して盛り上がりましょう。



・次回⇒ 老健 リハビリ / 柔道整復師 西迫 隼人

ディズニーが教えるお客様を感動させる最高の方法 / ディズニー・インスティテュート

グループホーム オアシス平野 / 介護士 神野 幸子

この本との出会いは販売職の仕事で伸び悩んでいた頃、当時の上司から薦められました。以後、何度か読み返し、モチベーションを上げ、初心にかえることに役立っています。



本書は、著者：ディズニー・インスティテュートがディズニー独自の顧客サービス手法「クオリティ・サービス・サイクル」の極意を明かしたものです。

企業が目標とする究極のサービス、お客様を理解し、特別の気配りをいとわないサービスの精神が従業員に伝授され、共通のビジョン「感動の提供」への挑戦を本書の中で紹介しています。

お客様が期待以上の感動を覚えられかどうかは従業員、現場の人間次第、サービス提供の共通プロセス確立のため、企業がしっかり取り組んでいくことについても書かれています。

第3章「キャストが起こすディズニー・マジック」、第5章「ディズニー・マジックは入口から」は、サービスの提供という点で、介護の仕事においても参考になる一冊だと思っておりますので、皆さんへお勧めします。

・次回⇒ グループホーム オアシス平野 / 介護士 <特定技能> アッ・ミ・ゾー



はだしのゲン / 仲沢 啓治

特養 オアシス寿安 生活支援課 / 介護士 木村 マリ

日本がアメリカ、イギリス、オランダと戦争を始め4年、太平洋戦争も終わりの頃の作者が実際に体験した原爆を題材としたお話です。



昭和20年8月6日早朝、警戒警報が鳴り、防空壕に入らずにアメリカの飛行機が去って行ったので偵察と思い、屋外に出ていつもの通りの生活をしていたら、アメリカの爆撃機から原爆を落とされ、一瞬で周りは真っ暗。主人公のゲンが気がついた時には、家は無くなり、兄弟やお父さんは家の瓦礫の下敷きに。周りに助けを求めると、みんな皮膚が焼けた。水を求めてさまよっていた。水が見つかり、火傷をした人のところへ行くと、その人は死んでしまっていた。死体がゴロゴロあったが、ゲンは裸足のまま、死体の上を歩かざるえなかった。一緒に居た母のお腹には赤ん坊がいたが、原爆投下3年後、病死する。ゲンは力強く生きて行き、2012年12月19日、肺がんで亡くなった。戦争の酷さを伝えていくために漫画にされました。

いつまでも忘れられない、伝えていかなければならない、と、原爆のことをよく知らない私も、なんて悲しくて、辛くて、酷い事が起こったんだ!と泣いてしまいました。戦争の悲惨さと平和の尊さは決して、忘れてはいけないと心に誓いました。

・次回⇒ 特養 オアシス寿安 生活支援課 / 介護士 浅見 風咲



ソフィーの世界 / ヨースタイン・ゴルデル

老健 配食 / ドライバー 藤岡 亜矢子

「あなたはだれ?」 14歳の少女ソフィーに、たったこれだけの言葉が書かれた、差出人不明の手紙が届くことから始まる物語。



帯に「哲学ファンタジー」と書かれた3cm以上ある分厚い本。普通に本屋で出会っていたなら絶対に手にしない本。でも、今では、私の人生になくはならない大切な本です。この本をくれたのは、アルバイト先のお姉さん。私が二十歳の頃のことです。

当時、私は自身の将来や、自分を取り巻く様々なことに対して悶々としていました。

そんな私に気づいたのが、先輩は何も言わず、この本をプレゼントしてくれました。「あなたはだれ?」「世界はどこからきた?」

ソフィーが誰かの問いかけに対して一所懸命答えを探しはじめるのと一緒に、私も無意識のうちに私の中に問いかけていたのかも知れません。分厚い本をどんどん読み進めるうちに、「自分も誰かが書く物語の人物かも知れん」「なら、しんどいこともあるけど、きっといいことも起こるはず」という考えが生まれ、「大丈夫やで」と全てを肯定してもらっているような不思議な気持ちになり、心が軽くなりました。分厚いけれど、とても読みやすく、壁に当たっている人、悩んでいる人是非読んでいただきたい本です。

この本と同じ、その先輩も、今も大切な友人です。

・次回⇒ 老健 配食 / ドライバー 永井 夕子



オアシス文庫 recommend



普段、職場でもスライベートでも、人から大事なことを報告され、伝達しないといけない場面が多々あると思います。その時、周囲の状態や本人の状態により、うっかり伝達を忘れてしまったり、勘違いで内容の異なった伝達を行い周囲の人を困らせてしまったことが、人間誰でも一度はあると思います。

私も同じようなことをしてしまった経験があるため、どうすればミスをしなくなるか、日々考えています。そのときにこの本を見つけ、読んでみました。

一番感銘を受けたのは、「ミスはあなたではなく脳のせい」という言葉です。

疲労や集中力の低下に伴い、脳のパフォーマンスも低下したことが、ミスの原因であると記されています。

身体の休養はよく取っていますが、あまり脳の休養は積極的には取れていないかなと感じたので、身体だけでなく、脳の休養も積極的にを行い、何事においてもミスしないように心がけたいと思います。

(教育委員会：橋本 武)

蔵書ご案内

絶対にミスをしない人の脳の習慣 / 樺沢 紫苑

老健入り口の書棚「オアシス文庫」から貸し出できます▶



編集後記

今月も7冊、職員の皆さんからご紹介いただきました。戦争のこと、自分自身のこと、人のもつ弱さに目を向けたもの、人の素晴らしい点やそれを交わし合うことに目を向けたもの、大人も子どもも楽しめるもの等色々。いつも本当にありがとうございます。

今回、藤岡さんから「ソフィーの世界」をお借りしました。経年感がないので「何年

も持っておられるのに綺麗に保管されてるんですね」と尋ねると、「私のはあげたので最近、新しいのを買ったんです」と言われました。なんとなく、気がかかった方に差し上げたそうです。きっと、無言の「大丈夫やで」というエールを込めて・・・。

本の持つ力も、人を想う力も、こうして静かに継がれていくんですね。



教育委員会

(教育委員会：中島美和子)